

「住民主体の送迎支援『地域の足』事業の実現に向けた地域との連携」

【テーマを選定した理由（背景）】

単位町内会が主体となって企業と連携して通院送迎支援をしている事例は珍しく、地域住民と包括が連携して取り組んでいる事業であるため

【現状・課題】

- ・荒井山町内会（宮の森大倉山地区）は起伏が多く、交通の便が悪い地域である
- ・高齢化で車を手放し、通院に苦勞する住民も多い

町内会や民生委員が日頃の見守り活動の中で送迎支援を実現したいと思っていた

ダイハツ北海道(株)と損保ジャパンの両社が、車両やガソリン代、保険代などの費用を負担して、社会貢献活動をしたいと思っていた

生活支援CO が双方のニーズをつなげた

【評価（成果・課題）】

- ・身体的・金銭的理由から受診ができない方の利用につながった。また、困難事例の定期受診につなげることができた。
- ・町内会とのつながりが強くなり、送迎支援以外の相談についても互いに連絡を取り合う機会が増え、連携体制の構築につながった。
- ・町内会が地域からの相談を受ける機会が増えた。
- ・利用可能時間が店舗の開いている時間に限られる、利用者が固定化しつつあることが課題となっている。

【取組内容】

① 包括にて相談受付

- 申込日は利用日時の1週間以上前
- 利用日時は火曜日以外の10:00~17:00の時間帯
- 利用目的は通院や治療に伴う事項
- タクシーや公共交通機関が利用できない又はタクシー費用の負担が困難な方
- ご家族等の支援が困難
- 介護が必要な場合、介助者（同乗者）が必要



令和3年2月末現在、
利用登録者：5名
稼働件数：29件

町内会で周知をしても依頼は来ない、困っている人の把握が難しい…

② 包括による実態把握訪問、担当CMへの聞き取り

③ 「地域の足」相談受付票の作成、承諾書の交わし

④ 包括から町内会への連絡、見守り会議での検討・調整

⑤ 送迎ボランティアによる送迎

⑥ 町内会から区社協・包括へ終了報告

【今後に向けて】

- ・町内会主体の活動であるため、個人情報取り扱いについて、改めて確認する必要がある。
- ・利用者が増えた場合の対応方法（登録ボランティアは3名、運転手の高齢化）について検討していく。
- ・今後、相談受付窓口を地域住民へ移行する方法について、関係機関とも連携しながら模索していく。